

# 1 漢詩の風景

【目標】・漢詩の形式や種類を知ろう。

名前

1 「」に適切な語句を入れ、漢文の決まりを確かめよう。

「 百聞不如一見」

← 訓点(送り仮名・返り点・句読点・句読点)を付ける。

「 百聞ハ不<sup>レ</sup>如<sup>カ</sup>一<sup>ニ</sup>見<sup>ニ</sup>。」

← 漢字仮名交じりの文語文に書き改める。

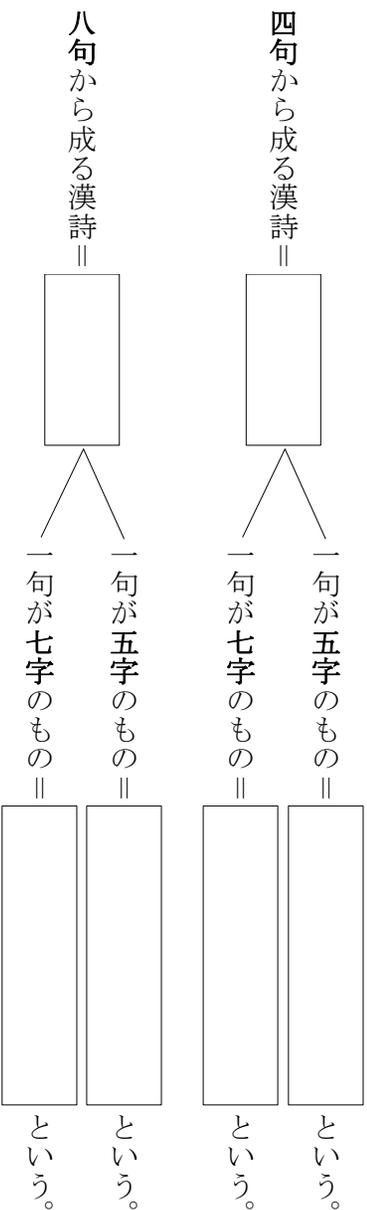
「 百聞は一見に如かず。」

**送り仮名**  
日本語として読みやすくするために、本来の漢文にはない助詞や送り仮名などを歴史的仮名遣いで、漢字の右下に片仮名で記す。

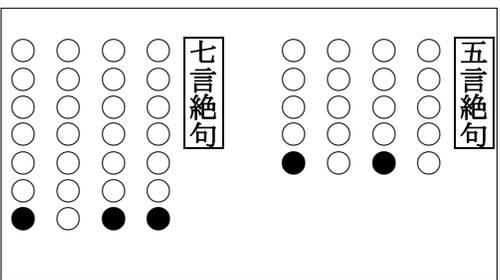
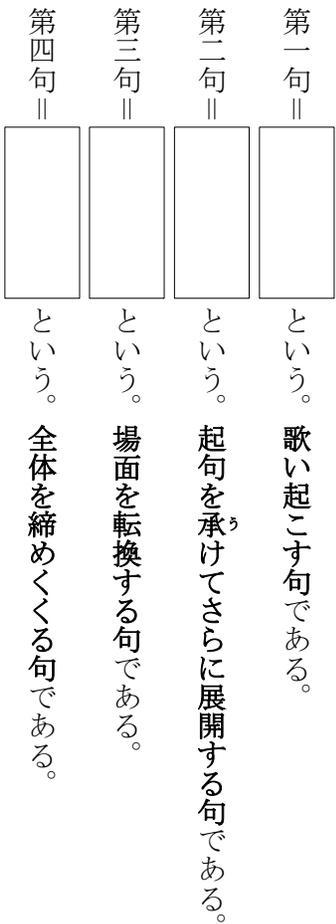
**返り点**  
読む順序を示す記号で、漢字の左下に記す。  
レ点…すぐ下の一字から返って読む場合に付ける。  
一・二点…二字以上を隔てて、上に返って読む場合に付ける。

2 漢詩の形式と構成法について、空欄に適切な語句を書いて整理しよう。

①形式



②絶句の構成





3

漢詩の風景

【目標】・杜甫「絶句」を読み解こう。

名前

1 『絶句』は、どのような漢詩の形式だろう。漢字4文字で答えよう。

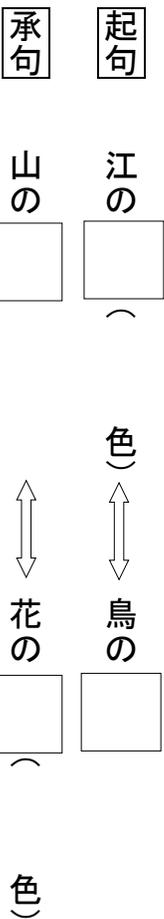
2 一段目の訓読文、二段目の書き下し文に当てはまる意味を、起句に続いて書き出そう。

絶句 杜甫 とほ

江碧鳥逾白 <small>ハニシテハヨク</small>	江は碧にして鳥は逾 <small>いよ</small> よ白く	<b>起</b> 長江の水は深いみどり色に澄み、その色を背景に鳥たちはよりいっそう白く見えます。
山青花欲然 <small>ハクシテハスエント</small>	山は青くして花は然えんと欲す	<b>承</b>
今春看又過 <small>イマハルマタスグ</small>	今春看す又過ぐ	<b>転</b>
何日是帰年 <small>ナレノカレナラン</small>	何れの日か是れ帰年ならん	<b>結</b>

3 起句と承句は（ ）になつており、豊かな色彩を表している。  
 に色を表す漢字を、漢詩の中から書き抜こう。

3の場面を絵に表そう。



4 作者はどこで、どんな気持ちでこの詩をよんでいるのだろう。

作者名（ ）

5 この時間に学習したことについて、感想を書こう。

# 漢詩の風景

4

【目標】・李白「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」

を読み解こう。

名前

1 『黄鶴楼…』はどのような漢詩の形式だろう。漢字4文字で答えよう。

2 ①歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して、( )に書き込もう。

②一段目の訓読文、二段目の書き下し文に当てはまる意味を、起句に続いて書き出そう。

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白

故人西辞黄鶴楼	故人西のかた黄鶴楼を辞し	起	友は西にあるこの黄鶴楼に別れを告げて
烟花三月下揚州	烟花三月揚州に下る	承	
孤帆遠影碧空尽	孤帆の遠影碧空に尽き	転	
唯見長江天際流	唯だ見る長江の天際に流るるを	結	

3 作者はどこで、どんな気持ちでこの詩をよんでいるのだろう。

漢詩の場面を絵に表そう。

作者名 ( )

4 この時間に学習したことについて、感想を書こう。

## 漢詩の風景

【目標】 ・ 情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう。

名前

1 ①三編の漢詩の白文に、返り点や送り仮名を付け、訓読文を作ろう。

②訓点に従って、正確に訓読しよう。

③漢詩特有の言葉遣いやリズムを意識して、繰り返し練習しよう。

春暁 孟浩然	絶句 杜甫	黄鶴楼にて孟浩然の 広陵に之くを送る 李白
春眠不覚暁	江碧鳥逾白	故人西辞黄鶴楼
处处聞啼鳥	山青花欲然	烟花三月下揚州
夜来風雨声	今春看又過	孤帆遠影碧空尽
花落知多少	何日是帰年	唯見長江天際流

2 三編の漢詩の中から一編を選び、自分の気持ちや価値観と重なる表現や句を抜き出し、その理由を書こう。

好きな詩や句の表現	選んだ理由
題名「 」	

3 自分の体験と重ねながら、今も昔も、共通している思いを書き表そう。

--